



# 近畿中部防衛局広報誌

# 近畿中部防衛局



機雷水中爆破



第42掃海隊

- 木村要精華町長と田淵眞二 自衛隊施設巡り
- 近畿中部防衛局長との対談 ~海上自衛隊阪神基地隊~
- 装備品紹介(潜水艦「そうりゅう」型)
- ハイチ国際救援隊(第4次要員)帰国
- 台風12号における災害派遣活動
- 当局の主な広報活動について(9~11月)
- 新幹部紹介 シリーズ各課紹介「装備課」なるほど防衛豆知識

# 2011 冬号

# 木村要精華町長と

## 田淵眞二近畿中部防衛局長との対談

当局は、2010年冬号から防衛施設周  
辺自治体の首長と当局局長との対談をシ  
ーズで企画しており、今回は、陸上自衛隊  
の祝園分屯地が所在する京都府精華町の木  
村町長との対談です。

〈平成23年11月24日精華町役場で実施〉

### 防衛施設の安定使用への謝意と まちづくりへの寄与

**局長** 本日は、お忙しい中、貴重な  
お時間をとって頂きまして有難うご  
ざいます。

陸上自衛隊祝園分屯地の歴史は、  
旧陸軍が昭和16年に大阪陸軍兵器補  
給廠祝園支処を開設したことに始ま  
り、米軍による接收時期を経まして、  
昭和35年に陸上自衛隊が使用を開始  
して現在に至る訳ですが、部隊運用  
が円滑になされ、施設が安定的に使  
用出来ておりますのは、町長を始め  
とする町民の皆様方の御理解と御協  
力の賜であり、感謝申し上げます。

**町長** これまでの陸上自衛隊祝園分  
屯地の歴史の中では、さまざまな経  
過もございましたし、最近では無防  
備平和運動の動きなどもございまし  
た。

しかしながら、国並びに防衛省の  
特段のご配慮により、民生安定事業

等への助成により、公共施設整備が  
推進、充実化を図ることができまし  
たし、安全・安心なまちづくりにも多  
大な寄与いただいています。

### 木村町政3期目の抱負、 目指すまちづくり

**町長** これからの4年間の町政推進  
にあたり、改めて『命(いのち)と  
希望(きぼう)をつなぐ』まちづく  
りを進めたいと決意しています。

東日本大震災からの復興はまだこ  
れからではありませんが、我々があの  
大震災から学ぶべき教訓は計り知れ  
ないほど多岐にわたっています。



木村要精華町長

そうした中で、何よりも重要な基  
本姿勢は、命を大切にす町政を貫  
くことであり、また、将来に希望の  
持てる町政を推し進めることであ  
ります。

防災に強い安全で安心なまちづく  
りを進める上で、真の豊かさを実感  
できる生活を営む上では、改めて「自  
助、共助、公助」それぞれの役割分  
担の重要性を見直さなければなりま  
せん。

国家財政の破綻的事態が迫ってお  
り、ますます混迷が深まるなかで、  
我々地方公共団体は否が応でも自立  
の道を迫られていると考えています。  
こうした中であって、本町は学研  
都市の発展と運命を共にするまちで  
あり、学研都市精華町の将来の発展  
を確かなものとするための道筋を明  
らかにしたいと考えています。

また、政策の重点化を図るなかで、  
これまでと同様に、住民のみならず  
からお預かりした税金を「一円たり  
とも無駄にせず」を基本に可能な限  
り、これまで積み重ねられてきた精  
華町の誇るべき行政サービス水準を  
維持する方針を堅持したいと考えて  
おり、そのためには、引き続き行財  
政改革を強力に推進したいと考えて  
います。



田淵眞二近畿中部防衛局長

**局長** おっしゃるとおり、国や地方  
公共団体の財政は非常に厳しい状態  
が続いておりますので、より知恵を  
活かした工夫が求められるところだ  
と思っております。

また、財政のみならず、人的基盤  
においても少子高齢化の波は一層加  
速度を増して押し寄せてきますので、  
その面に対する配慮が求められると  
ころです。当省においても、多様化、  
国際化した各種任務を遂行するため  
には、質の高い人材を確保すること  
が必須の条件となっております。様々  
な工夫・検討を行っております。

### 東日本大震災の教訓と、 災害に強いまちづくり

**町長** 東日本大震災では、自衛隊の皆様が全国各地から災害派遣に駆けつけられ、活躍されたことは記憶に新しいところです。改めて、その組織としての力を感しました。当町でも、より自衛隊との連携が重要であると考え、本年4月から、自衛官OBの方を危機管理監として採用するとともに、総務課に危機管理室を設置し、さまざまに危機事象への備えにあたっています。

**局長** 自衛隊では、地方公共団体と連携を強化する一環として、地方公共団体からの要請に応じて、防災の分野で知見のある退職自衛官の推薦などを行っており、平成23年4月末現在192名の方が地方公共団体の防災関係部に在職しています。これらの自衛官が地方自治体に再就職することにより、自衛隊との相互の連携が強化されるばかりでなく、地方公共団体側におかれても、防災をはじめとするいわゆる危機管理への対応能力の向上に繋がるものと考えております。貴町におかれても、この4月から新たに採用して頂いたとのこと、期待に十分応えて活躍してもらえればと思っております。いずれにしても、今後も様々な日頃からの連携が重要と考えております。

**町長** これまでから、あらゆる可能性を想定して、平常時から万全の備えに力を注いできましたが、東日本大震災の発生により、「命(いのち)」

と「希望(きぼう)」について、改めて考えさせられました。

安全・安心のまちづくりとして、ソフト施策を組み合わせながらの減災への取り組み、主要施設の耐震化や防災教育の充実が必要となってくるものと考えます。

**局長** それに関連することですが、防衛省・自衛隊としては、災害派遣時の活動がより効果的に行えるよう、地方公共団体においても平素から準備をして頂くことが重要であると考えております。

例えば、災害派遣の際、自衛隊の連絡要員が円滑に連絡調整を行えるよう、町役場等に作業や通信などを行うための区画や駐車場などを確保するとともに部隊などがスムーズに活動するための資材の集積などの場所、すなわち集結地やヘリポートの整備等が必要と考えております。

### 基地との共存共栄

**町長** 本町のまちづくりを進める上では、さまざまな課題を抱えています。特に、老朽化や耐震化などの課題を抱えた、消防庁舎をはじめとした公用・公共施設に加え、教育施設、地区集会所などの地域コミュニティ施設について、改築または改修などの対応に迫られています。また少子・高齢社会の中で、食育と健康づくり、

子育て支援、障害者支援、高齢者支援など社会的弱者への支援は大きな課題となっており、本町は近隣と比較しても福祉サービス水準が高いと言われており、これらへの財源の投入も年々拡大傾向にあります。

いずれにしましても、課題解決のためには大きな財源が必要であり、財政状況が厳しい中では、実現が困難な状況にあります。各種の事業の実施にあたっては、国や府、その他の財源確保に全力で取り組んでおり、可能な限り基地対策財源の活用をしたいと思います。そのためにも特段のご配慮をお願いしたいと考えています。

**局長** 私共、地方防衛局は、これまでいわゆる環境整備法に基づいて様々な対策を行ってきたところで、周辺住民から寄せられる御要望は、生活の態様の变化等に伴って変化するとともに多様化して参りました。そのようなニーズの変化に対応すべく、本年4月、防衛施設周辺の生活環境の整備に関する法律第9条が改正され、従前から実施しておりました、施設の整備いわゆるハード事業に加え、施設の維持費や人件費及び医療等の助成を目的とした基金造成事業いわゆるソフト事業ができるようになりました。

また、本年11月には、防衛施設周辺の生活環境の整備に関する法律第8条の実施要領が改正となり、従来

と比べて採択の幅が広がっており、より使い勝手のよいものになってきました。

私共としても、今後とも様々な点で、皆様方のまちづくりのお手伝いのできたらと願っておりますのでよろしく願います。

**町長** いろいろと御教示頂き感謝をしております。

これまでも、さまざまな本町の行政課題の解決のために、有形無形のご協力をいただいております。今後もし引き続き、ご支援をお願いします。

防衛施設周辺の環境整備やまちづくりは、国と地方が連携して取り組むものであり、今後も一層結びつきを強めていきたいと考えています。

**局長** 本日は、いろいろとお話を伺わせて頂きありがとうございました。当局といたしましては、地元の皆様との意思疎通を十分に図っていき、今後も良好な隣人関係を築いていきたいと考えております。



## 海上自衛隊阪神基地隊

海上自衛隊阪神基地隊は、昭和27年8月横須賀地方隊西部航路啓開隊隷下、保安庁警備隊大阪航路啓開隊として大阪市東区高麗橋に隊本部を置き、坂本龍馬ゆかりの海軍操練所があった神戸中突堤に神戸基地を、和歌山県由良町の帝国海軍紀伊防備隊跡地に由良基地を置き発足しました。

その後、昭和28年9月大阪航路啓開隊が廃止、大阪基地隊として新編、呉地方基地隊に編入されました。その後、数回の部隊の新改編を経て、昭和43年に基地隊本部を神戸市東灘区魚崎浜町に移転、名称も阪神基地隊となり、現在に至っています。



上空からの基地全景



神戸港における機雷水中爆破

掃海艇への燃料、食料、福利・厚生面での支援とともに、造船所で修理中の潜水艦乗組員への支援を行っています。

なお、阪神基地隊本部地区は、平成7年1月の阪神・淡路大震災により液状化現象等により、壊滅的な被害を受けました。本部地区勤務者は居住場所を失い紀伊警備所等に疎開を余儀なくされる等しましたが、震災後約100日間に及ぶ災害派遣を実施しつつ、平成9年12月には岸壁等全面復旧作業を終了し蘇っています。

そして、東日本大震災に際して、第42掃海隊が発生後直ちに現場に急行出来たのも、この阪神

ます。

現在の阪神基地隊は、基地隊本部、由良基地分遣隊、仮屋磁気測定所、紀伊警備所、そして東日本大震災に際しては現場海域で捜索救助、離島等支援の災害派遣任務に従事した第42掃海隊から編成され、大阪基地隊以前から受け継がれてきた、瀬戸内海等の掃海業務（第2次大戦中に米軍が敷設した機雷等の処理、最近では平成22年6月に神戸市中央区のポートアイランド沖で発見された機雷を処分しています。）、大阪湾・紀伊水道を含む瀬戸内海東部の防衛・警備、寄港する護衛艦や



阪神・淡路大震災による被災直後の基地

・淡路大震災での災害派遣と復旧作業の日々が教訓として生きています。

このように、阪神基地隊は海上自衛隊呉地方隊隷下唯一の部隊として、日々皆様の安心と安全のために活動しています。

なお、阪神基地隊へのアクセス等は、阪神基地隊ホームページに掲載してあります。特に、阪神基地隊本部の所在する神戸市東灘区魚崎浜は、北に六甲山系、南に大阪湾を望む風光明媚な場所で、近隣には帝国海軍ゆかりの「櫻正宗」酒蔵他、「灘の生一本」で知られる灘五郷があります。是非、同基地まで足を運んで頂ければ幸いです。



手前から、掃海艇「つきしま」、「くめじま」、「まきしま」

## 装備品紹介 (潜水艦「そうりゅう」型)

海上自衛隊の潜水艦は、年1隻のペースで建造されています。潜水艦の建造技術を有する造船所は、三菱重工神戸造船所と川崎重工神戸工場です。神戸は潜水艦建造の中心地ということです。潜水艦は、造船所に発注してから就役するまでに4年以上の工事期間が必要です。この間、近畿中部防衛局の検査官が連日、様々な検査や試験に立ち会っています。

現在、最新鋭(「そうりゅう」型)の潜水艦4隻の建造工事が行われています。昨年10月20日には、三菱重工で建造中の潜水艦が「ずいりゅう」と命名され、進水しました。「ずいりゅう」は、平成25年春の就役を目指してさらに工事が進められています。また川崎重工では、今年3月の就役を目指して「けんりゅう」が海上での試験運転を実施しています。



試験運転中の潜水艦「けんりゅう」  
(「そうりゅう」型4番艦)



平成23年10月20日に進水した「ずいりゅう」

日本の潜水艦は、ディーゼル発電機で電池に充電して、充電された電気でモーターを回して推進します。潜行中は、すべて電池に充電された電気で運航します。蓄えた電気が少なくなるとディーゼル発電機を駆動して充電しなければなりません。ディーゼルエンジンを回すには、大量の空気と排気が必要となり、浮上するか、スノーケルと呼ばれる吸排気筒を海面上に出して航行します。

さらにディーゼルエンジンは、シリンダ内で燃料を爆発的に燃焼させるため大きな騒音・振動が発生します。海の忍者と呼ばれ隠密性を重視する潜水艦にとって、発見されてしまう可能性が高くなります。

平成21年に就役した最新鋭の潜水艦「そうりゅう」型からは、ディーゼル発電機に加え、スターリングエンジンで駆動する発電機を搭載しています。

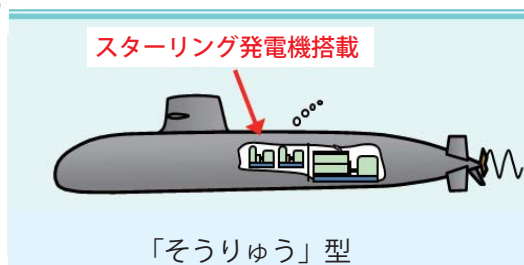
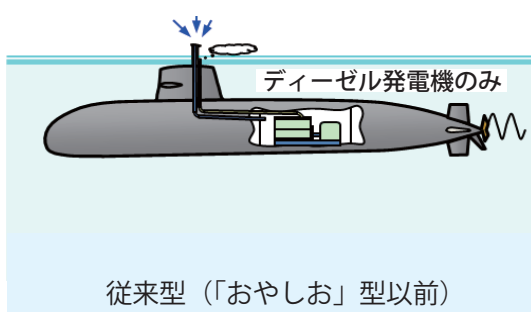
スターリングエンジンは、ディーゼルエンジンのように、爆発燃焼によってピストンを動かす内燃機関ではなく、外燃機関といって、連続燃焼している熱源でシリンダ内の作動ガスを外側から加熱して膨張させ、冷却器で冷却して収縮させピストンを作動する極めて静かなエンジンです。

また、艦内のタンクに貯蔵した燃料と酸素で燃焼させて、排気は水中に放出するため、浮上やスノーケルを海面上に出す必要がなく、潜航したまま充電が出来るのです。

ディーゼルエンジンに比べ発電能力は小さいものの、このシステムにより、更に水中に長く潜っていることが出来るようになり、従来型(「おやしお」型以前)の潜水艦と比較してより探知されにくく性能がアップしました。



潜航したまま充電ができるよ



# ハイチ国際救援隊（第4次要員）帰国



関西国際空港において家族等の出迎えの中帰国



駐屯地での出迎え



駐屯地での帰国行事

平成22年1月13日（日本時間）に、ハイチ共和国西部で発生した大地震により、甚大な被害が発生しました。

1月19日、国連安全保障理事会は、国連ハイチ安定化ミッションの要員の増員に関する決議を全会一致で採択し、加盟国に対し要員の派遣などについて要請を行いました。

これを受け、国際平和協力法に基づき、自衛隊はハイチ派遣国際救援隊を現地に派遣しており、今年2月から第4次要員として当局管内に所在している陸上自衛隊第3師団（兵庫県伊丹市）及び第4施設団（京都府宇治市）から約350名の隊員が現地に派遣されていましたが、このほど、約半年間にわたる活動を終え、無事帰国し、8月31日に帰国行事が陸上自衛隊千僧駐屯地において実施されました。

同第4次隊は、国連の統括の下、同第3次隊からの活動を引継ぎ、被災した建物の解体、瓦礫の除去、道路の補修及び軽易な施設建設等を行いました。

なお、同第4次隊では初めて女性隊員6名も派遣されました。

## 台風12号における災害派遣活動

今年9月に、日本列島の広い範囲で記録的な大雨となりました。特に紀伊半島では、台風12号により記録的な大雨となり、各地で河川の氾濫や土砂崩れが多発したため、亡くなられた方や行方不明者が発生し、家屋が全半壊するなど非常に甚大な被害がありました。このため、豪雨被害による災害派遣要請が、平成23年9月3日に和歌山県知事、9月4日に奈良県知事よりなされ、和歌山県においては主として第37普通科連隊が9月29日まで、奈良県においては主として第4施設団第7施設群が10月14日まで災害派遣活動を実施しました。



行方不明者の捜索（奈良県十津川村・二津野ダム）



行方不明者の捜索（和歌山県那智勝浦町）

懸命に救助活動を行いました!



行方不明者の捜索（奈良県十津川村・二津野ダム）



撤収時の奈良県十津川村役場での見送り

# 当局の主な広報活動について (9~11月)

## 1 防衛セミナー開催



主催者挨拶を行う 田淵局長

9月30日(金)クレオ大阪東(大阪市城東区)において「東日本大震災における自衛隊・米軍の活動について」と題して、第16回防衛セミナーを開催しました。

本件セミナーは、東日本大震災への対応で活躍された近畿中部防衛局管内の部隊指揮官や在日米軍司令部の幕僚に活動状況を直接語っていただくことにより、防衛省・自衛隊及び在日米軍の活動への理解を深めていただくことを目的として開催したものです。

講演者は次のとおりです。

陸上自衛隊 第4施設団第7施設群長 米津浩幸1等陸佐  
海上自衛隊 第42掃海隊まきしま艇長 富沢啓治1等海尉  
在日米軍司令部 運用課長 マシュー・ビッセル空軍少佐



米津浩幸1等陸佐



富沢啓治1等海尉



マシュー・ビッセル空軍少佐

## 2 防衛白書説明

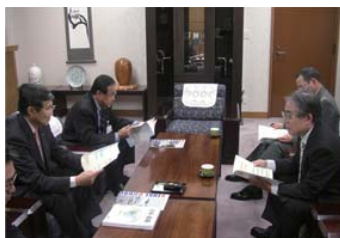
防衛白書は、我が国の防衛の基本的事項やこの1年間の防衛省・自衛隊の主要な動きなどについて記述した文書で、閣議において了承された防衛省の公式な刊行物です。

本件説明は、この防衛白書を使用して、防衛省の各種施策について管内地方公共団体等の理解を深めるとともに、防衛省・自衛隊と管内地方公共団体等との連携強化を図ることを目的として実施しているもので、当局は、防衛施設周辺自治体等に対して順次説明を行っており、田淵局長は、この間、佐藤大阪商工会議所会頭を始めとして、管内各府県知事等に説明を実施しました。

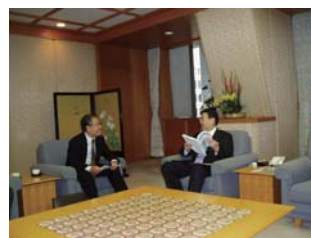
なお、平成23年版防衛白書は、防衛省のホームページに掲載されており、また、電子書籍版を初めて作成し、スマートフォン等で利用できるようになっており、ダウンロードは無料です。



嘉田滋賀県知事への説明



仁坂和歌山県知事への説明



山田京都府知事への説明



## 3 FMラジオ放送出演

田淵局長は、和歌山県有田郡湯浅町にあるFM放送ラジオ局「FMマザーシップ」において、毎週土曜日午後3時から放送されている番組、「田淵局長の防衛問答近中でござる」にレギュラー出演し、防衛白書や自衛隊による国際平和協力活動といった防衛省として広く周知したいテーマを取り上げるとともに、一般にも関心と呼ぶテーマをタイムリーに説明しています。

11月に放送されました、「前ハイチ国際救援隊第4次隊隊長を迎えて」では、陸上自衛隊第36普通科連隊連隊長足立1佐から、ハイチでの活動状況等について説明して頂きました。

なお、収録番組については、近畿中部防衛局ホームページ内の「FM放送」コーナーで順次公開しておりますので、是非、お聞き下さい。

9~11月放送のテーマは次のとおりです。

「防衛白書(その1)」(9月3日・10日放送)

「防衛白書(その2)」(9月17日・24日、10月1日放送)

「東日本大震災への対応に関する教訓事項(中間取りまとめ)(その1)」  
(10月8日・15日放送)

「東日本大震災への対応に関する教訓事項(中間取りまとめ)(その2)」  
(10月22日・29日、11月5日放送)

「自衛隊による国際平和協力活動」(11月12日・26日放送)

「前ハイチ国際救援隊第4次隊隊長を迎えて」(11月19日、12月3日放送)



「陸上自衛隊第36普通科連隊連隊長のハイチでの活動状況」収録風景

# 近畿中部防衛局新幹部紹介

局次長 辻 秀 夫



9月12日付けで近畿中部防衛局次長として着任しました辻です。近畿・中部地区での勤務は初めてですが、よろしくお願いいたします。

当局管内の2府10県の人口は約3,500万人、域内総生産は140兆円余りに及び、いずれも我が国の3分の1近くを占める屈指の人口・産業の集積地帯であります。一方では古代から近世に至る長い歴史の歩みを背景に、数多くの有形・無形の伝統的文化的遺産に恵まれ、防衛の仕事に係わる者にとって「国の守り」の意義深さを改めて実感させて頂ける地域です。

ここ近畿・中部地域におきましても、従来から多くの国民の皆様、とりわけ防衛施設周辺地域の皆様の御理解と御協力を得て、陸・海・空の自衛隊員等がそれぞれの駐屯地・基地や演習場等で日々訓練に励み、様々な事態に対して適切に対応できる態勢づくりに努めるとともに、先般の東日本大震災や台風12号による豪雨被害に伴う災害派遣活動などのように日頃の訓練の成果を実際の任務行動にも活かしています。また、重要な防衛生産基盤を擁し、その意味でも地域の皆様の防衛行政への御理解が欠かせないと考えております。

近畿中部防衛局としては、今後とも地域の皆様の自衛隊、防衛施設、防衛行政に対する御理解を一層深めて頂けるよう努力を傾注し、「国の守り」「国民の安全・安心」の維持・確保のため精一杯取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

総務部長 石尾 慎一郎



9月1日付で総務部長に着任しました石尾です。まだ3ヶ月ちょっとですが、当局が平成19年の改編を機に、それまで主任務を「基地対策」というやや受動的なニュアンスで表現していたのを、防衛行政全般の地方拠点という風に変えたことで、それにふさわしい「文化」が形成されつつあると感じています。私も過去に、自衛隊地方連絡部長や海外派遣部隊の政策補佐官として、自衛隊と社会の接点に位置する職を経験し、軍事組織の活動が成果をあげるには、一般社会の感覚や論理を理解すること、そして自分達の思考過程や行動を一般の方々が理解できるよう説明することが不可欠であることを、肌で感じました。総務部の仕事はいわゆる内部管理ですが、改編で文官中心の組織から事務官、技官、自衛官の混合組織になったことも活かし（るつぼというよりモザイク状ですが）、防衛省・自衛隊と地域社会が相互理解を深めるための橋渡し役にふさわしい「局風」を培っていきたいと思います。

管理部長 眞鍋 誠孝



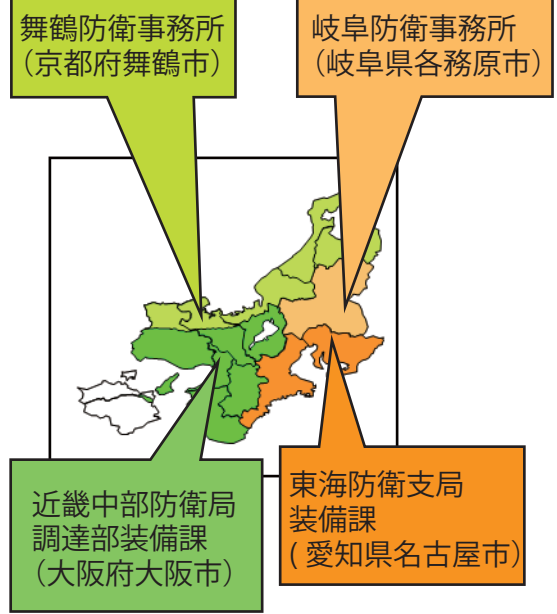
8月22日付で近畿中部防衛局管理部長として着任しました眞鍋です。約3ヶ月以上が過ぎやっ和大阪にも慣れてきたところ。官舎のある桃谷は大阪城南に位置し、環状線の鶴橋駅と天王寺駅の間にある静かな町です。近くには大阪冬の陣のとき真田幸村が陣を構えた真田山公園があり、南側の天王寺に近づくほど大阪らしい下町が広がる地域です。一方、環状線の鶴橋駅東側は、日韓併合後の済州島と大阪をつなぐ直行便「君が代丸」の就航により多くの人々が朝鮮半島から日本に渡航し、この周辺に集まりできた異国情緒あふれるところ。その鶴橋駅周辺は小さな店が所狭しと立ち並び、キムチの独特の香りや高架下の焼肉店から立ち上る煙が路地裏いっぱい漂う「環境省のかおり風景100選」にも選ばれた大阪でもまれに見る魅惑の場所です。週末に地元の人々の行きつけの店に連れて行ってもらった時の新たな発見が楽しみの一つです。

その鶴橋駅周辺は小さな店が所狭しと立ち並び、キムチの独特の香りや高架下の焼肉店から立ち上る煙が路地裏いっぱい漂う「環境省のかおり風景100選」にも選ばれた大阪でもまれに見る魅惑の場所です。週末に地元の人々の行きつけの店に連れて行ってもらった時の新たな発見が楽しみの一つです。

# 「装備課」

装備課の所掌業務は、①装備品に関する業態調査及び価格の調査等、②調達品及びこれに関する役務に係る原価監査及び監督・検査業務、③調達品及びこれに関する役務に係る契約相手方における秘密及び保護すべき情報の保全に関する業務を実施しています。**この中で一番人数も時間も費やしている業務が、監督・検査業務です。**

近畿中部防衛局は近畿・中部地方の2府10県を管轄しています。調達部装備課ではこの中の兵庫県、京都府の南部、滋賀県、大阪府、奈良県及び和歌山県に所在する工場等を管轄しており、検査官等はこの大手前の合同庁舎の他に、神戸市の、防災合同庁舎にある神戸分室に勤務するほか、明石にある川崎重工明石工場、神戸市にある新明和工業甲南工場に常駐しています。



## 【潜水艦内部での船体検査】

監督・検査は、装備品の契約の適正な履行を確保するための手段として実施され、それぞれの概要については、

①監督は、通常、製造又は役務の請負契約の履行課程において、必要な立会、工程管理、材料・部品等の審査又は試験、細部設計書の審査・承認等の方法により、検査では確認できない部分について、契約物品に対する要求事項が確実に具現されるよう適時適切に行うものであり、これによって、納期までに満足し得るものを確実に取得出来るようにしています。

②検査は、契約履行の最終段階において、給付内容の適否及び給付の完了を確認するために行われるものであり、装備品の調達ではこれを完成検査と受領検査に分けて実施しています。

特に装備品には、複雑高度なものが多いため、それぞれの装備品に応じて、①直接監督・検査方式、②品質証拠監督・検査方式、③資料監督・検査方式の中から要求内容に応じて適した監督・検査方法を選択し、監督・検査の効率的、効果的な実施とともに、装備品契約の適正な履行確保に努めています。



## 装備課が担当する主な調達品



潜水艦

警戒管制レーダー



救難飛行艇

- 潜水艦は三菱重工神戸造船所と川崎重工業神戸工場で作られています。
- 警戒管制レーダーは三菱電機尼崎工場で作られています。
- 救難飛行艇は新明和工業甲南工場で作られています。



# なるほど防衛豆知識



質問：進水式ってなんですか？どのようなものですか？

回答：「進水」とは、建造中の船を初めて水に浮かべる作業を言います。これは船の建造においてとても重要な作業であると同時に、神様に新しい船の誕生を報告して、その船の就役後の航海の無事や乗員の安全を祈願するなど、宗教的な意味合いも含んでおり、古代から「進水式」という儀式として行われてきました。

通常、その船に命名を行ってから進水させます。防衛省が発注した艦船の場合は、「命名・進水式」として実施しています。

1 命名・進水式の流れは次のようなものです。

- ① 国歌吹奏・国旗掲揚
- ② 命名式
- ③ 支綱切断
- ④ 進水



まず、国家が吹奏され、国旗が掲揚されます。続いて防衛大臣により命名が行われます。防衛大臣が欠席の場合は、代理者が防衛大臣の命名書を読み上げます。次に「支綱（しこう）」と呼ばれる綱が斧で切断され、シャンペンや日本酒などの瓶とくす玉が割られ、進水します。

2 進水の方法

進水の方法は、船の大きさや造船所の建造施設、ノウハウなどにより様々な方式があり、代表的な方式を3つ紹介します。

① 滑走進水

海に向かって傾斜した船台上をコロやワックスなどで滑らせて進水する方式です。

② 船渠（ドック）進水

ドック内で建造した船を、ドックに注水することで浮上させ進水させる方式です。

③ 吊り下げ進水

船台上で建造した船をクレーンなどで吊り下げて海に降ろし進水させる方式です。

近畿中部防衛局

# INFO

おしらせ

## ■ ご意見・ご感想等募集 ■

近畿中部防衛局では、今後も防衛省・自衛隊の様々な活動等の特集していきたいと考えておりますので、本誌に対する皆様のご意見・ご感想などがありましたら何でも結構ですのでお聞かせ下さい。

皆様方のご意見を参考にさせて頂き、より良い誌面作りを目指したいと思っております。

(住所)

〒540-0008

大阪府中央区大手前4丁目1-67

近畿中部防衛局

広報編集委員会（報道官気付）

(電話・FAX)

TEL 06-6945-4953

FAX 06-6910-5669

(メールアドレス)

goiken@kinchu.rdb.mod.go.jp

なお、近畿中部防衛局広報誌 KINKI CHUBU は、北陸3県及び近畿2府4県所在の自治体、大学図書館及び公立図書館等に配布していますが、ご希望があれば、他の機関へもお届けしますので、お気軽にご連絡ください。

## 自衛官等募集案内

募集種目	募集人員	資格	受付期間	試験期日
幹部候補生	一般・技術 参考(22年度) 一般 (男子) 陸 約185名 海 約80名 空 約60名 (女子) 陸 約15名 海 約10名 空 約5名 技術 海 約15名	20歳以上26歳未満の者(22歳未満の者は大卒(見込)) 【大学院(専門職大学院を除く)修士学位取得者(海上技術幹部候補生志願者は、理工学修士学位取得者に限る)及び自衛官は28歳未満】	2月1日～5月6日	1次 5月14・15日 (15日は飛行要員のみ) 2次 6月14～16日  【海・空飛行要員のみ】 3次 7月12日 ～8月4日 (海は7月15日まで)
	歯科・薬剤 参考(22年度) 陸 約15名 海 約5名 空 約5名	専門の大卒(見込) 20歳以上30歳未満の者(薬剤は20歳以上28歳未満の者)	2月1日～5月6日	1次 5月14日 2次 6月14～16日
予備自衛官補	一般 約1,400名	18歳以上34歳未満の者	①1月11日～4月6日	①4月15～18日
	技能 約200名	18歳以上で国家免許資格等を有する者(資格により53歳未満～55歳未満の者)	②7月19日～10月5日	②10月14～17日

詳細は下記地方協力本部にお問い合わせください。

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| ◇ 富山地方協力本部 076(441)3271  | ◇ 石川地方協力本部 076(291)6250 |
| ◇ 福井地方協力本部 0776(23)1910  | ◇ 滋賀地方協力本部 077(524)6446 |
| ◇ 京都地方協力本部 075(211)3471  | ◇ 大阪地方協力本部 06(6942)0541 |
| ◇ 兵庫地方協力本部 078(261)9777  | ◇ 奈良地方協力本部 0742(23)7001 |
| ◇ 和歌山地方協力本部 073(422)5116 |                         |

近畿中部防衛局では、防衛省の地方拠点としての役割を果たすため、国民の皆様から防衛行政全般にわたる緊急の連絡、情報提供に対応できる体制を確保しております。

夜間及び休日の緊急連絡先

TEL・FAX 06(6945)5381

KINKI CHUBU  
2011年度冬号(通算第17号)  
平成24年 1月 1日発行

近畿中部防衛局  
広報編集委員会

TEL 06-6945-4951

ホームページ  
http://www.mod.go.jp/rdb/kinchu/